

がんばろう南阿蘇

甚大な被害をもたらした「熊本地震」発生から2カ月半。余震が続く中、全国からたくさんの応援や支援をいただき、本村は少しずつ復興に向けて進んでいます。

各団体からの応援

国土交通省、県、警察、自衛隊、消防、行政派遣職員、村消防団など、あらゆる方面から総勢5千人を超える応援をいただき、行方不明者の捜索、防犯パトロール、被災地の調査、物資の輸送、災害対策本部への支援、避難所支援などさまざまな業務でご尽力をいただきました。



国土交通省緊急災害対策派遣隊 (TEC-FORCE)



倉敷市水道局による給水支援



鳥取県警による避難所巡回パトロール



和水町職員による 災・被災証明書申請受付支援



行方不明者の捜索 (緊急消防援助隊鹿児島県隊)

ボランティア

4月20日、村社会福祉協議会が、久木野総合福祉センターふれあいサロン内に、「災害ボランティアセンター」を開設。

2,831人(5月13日現在)のボランティアの皆さんに駆けつけていただき、一般家庭のがれき撤去、室内の清掃、粗大ゴミの搬出・運搬、避難所の運営などを行っていただきました。栃原以都子さん(第六駐在 宅でも自宅の食器棚などが倒れ、割れたガラスなどの片付けにボランティアの皆さんが訪れていました。栃原さんは、「助かりました、感謝しています」と言われていました。



がれきの撤去



一般家庭の粗大ゴミの積み込み



避難所の運営 (出入口の受付など)



「オハナシマン」こと坂本健一さん(大津町)による絵本の読み聞かせ

避難生活

村内8カ所の避難所で562人(5月16日現在)の皆さんが避難を余儀なくされ、長引く避難所での生活となりましたが、各避難所では、運動不足解消のため「ラジオ体操」や、避難所を快いものにしてようと、避難者の皆さんの協力のもと、避難所内の清掃を行う避難所もありました。

自衛隊による炊き出し・入浴支援

自衛隊の皆さんによる炊き出しが行われ、避難所へ運ばれました。ご飯と汁物、おかずが提供され、最多時で約1,600人分の食事を用意していただきました。

長陽庁舎近くの元南阿蘇クリニックに設置されたお風呂。シャワーも完備された浴室には、ゆっくり漬かり避難生活の疲れを癒やしてくれる浴槽が設置してあります。



シャワーが完備された浴室(左)
ご飯を一人分ずつ袋につめる自衛隊員(右)



朝食前の体操(上)
避難所内の清掃(下)



学校・保育所

村内の5小中学校は、5月9日から再開。初日はあいにくの雨の中でしたが、子どもたちは元気よく登校し、友達との再会を喜びました。



学校再開日に登校する子どもたち(久木野小学校)

村内3保育所で、4月26日から預かり保育を開始。園に子どもたちの声が戻りました。5月11日には、ちょうよう保育園に「くまモン」がやってきました。3園の園児が招かれ、一緒にダンスを踊ったり、間近で見るくまモンに園児たちは大はしゃぎでした。本田技研体育館避難所に設置されたキッズルームでも園児たちは元気に遊んでいました。

部活動も再開。中学校の体育館は避難所として使用していたため、屋内の部活動も学校のグラウンドで練習に励んでいました。



久々の部活動頑張ります!(陸上部)



くまモンを囲む園児たち(右)
本田技研避難所のキッズルームで遊ぶ園児たち(左)



1カ月を迎えて

4月16日の本震から1カ月を迎えた5月16日、今回の震災で亡くなられた方々へ村内各地で1分間の黙祷がさげられました。4月14日の前震以降1,400回を越える余震が続いており、長引く避難生活に不安や不便こともたくさんありますが、一人一人が手を取り合って、南阿蘇村は、復興に向け着実に前進していきます。



4月16日午前8時に黙祷をささげる職員ら(久木野庁舎)

がんばろう熊本
がんばろう南阿蘇